

厚労省 子宮頸がんパンフレット 2020 参照

子宮けいがん 特集

〈子宮けいがんとは？〉

子宮けいがんは子宮けい部（入り口付近）にできるがんで、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。このウイルスはありふれたウイルスで、多くの人が“一生に一度は感染する”といわれるウイルスです。感染してもほとんどの人は自然に消えますが、一部の人でがんになってしまうことがあります。

〈何人くらいが子宮けいがんになるの？〉

一生のうち、子宮けいがんになる人は1万人あたり132人、2クラスに1人くらい。子宮けいがんで亡くなる人は1万人あたり30人、10クラスに1人くらいです。30才までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、毎年約1200人います。

〈一生のうち子宮けいがんになる人〉

1万人あたり132人

2クラスに1人くらい

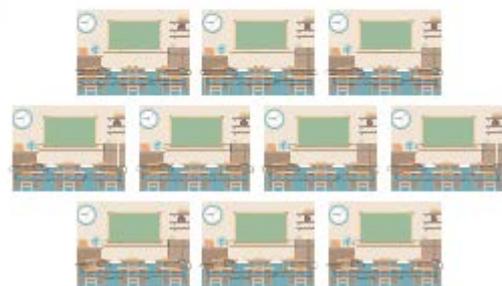


1クラス約35人の女子クラスとして換算

〈子宮けいがんで亡くなる人〉

1万人あたり30人

10クラスに1人くらい



つまりこれってどのくらい？



子宮けいがんで苦しまないために、できることがあります

① 予防接種を受ける

小学校6年生～高校1年生相当の女子を対象に、HPVの感染を防ぐ予防接種が無料で受けられます。将来の子宮けいがんを予防できると期待されています。イギリスやオーストラリアなどでは女子の約8割が予防接種を受けています。

② 性行為をするときはコンドームをつける

HPVは一度でも性的接触の経験があればだれでも感染する可能性があります。男性ではHPVが陰茎がんや肛門がん等を引き起こす原因になります。ウイルスは男性の性器にも付いているので、性行為をするときは最初から最後までコンドームをつけましょう。

③ 20才になったら子宮けいがん検診をうける

HPVの予防接種を受けていても、子宮けいがん検診は必要です。2年に一度検診を受けましょう。千葉市は無料で、市原市はけい部の検診のみ500～600円の自己負担で検査が受けられます。詳しくは「〇〇市 子宮けいがん検診」で検索してみてください。※〇〇は住んでいる市

予防接種（HPVワクチン）の効果

HPVの中には子宮けいがんをおこしやすい種類のものがあります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮けいがんの原因の50～70%を防ぎます。ワクチンは、HPVウイルスに感染してしまっていると効果がないので、性行為を経験する前の年齢（小6～高1）に受けることが推奨されています。



*高校1年生 理想の予防接種スケジュール



無料で接種を受けられるのは女子の高校1年生までです。それ以降になると、費用は自己負担になります（3回で4～5万円）が、高校2年生以降でも、性行為の経験が無い人は予防接種の効果はあります。

予防接種（HPVワクチン）のリスク

多くの人に、予防接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。筋肉に注射するので、インフルエンザの予防接種と比べて痛みが強いと感じる人もいます。ワクチンの接種を受けた後に、まれですが、重い症状が起こることがあります。ワクチンが原因となったものかどうかわからないものをふくめて、接種後に重篤な症状として報告があがったのは、ワクチン接種を受けた1万人あたり5人です。これは、将来子宮けいがんになる人より少ない人数です。ワクチンを合計3回接種しますが、1回・2回目に気になる症状が現れたらそれ以降の接種をやめることができます。ちなみに、このような予防接種に伴う副作用は子宮けいがんワクチンに限らず、インフルエンザや麻疹、風疹など、すべての予防接種にあります。効果とリスクを天秤にかけて、どちらの選択をするかは個人に委ねられています。



予防接種を希望する場合は

リスクを十分に理解した上で予防接種を希望する場合は、住んでいる市のホームページ:「〇〇市 子宮けいがん 予防接種」と検索してみましょう。不安なことや、聞きたいことがある人は保健室までご相談ください。

やっと…

健康診断が終わります

毎年6月で終わる予定の定期健康診断がまもなく終わります。受診のおすすめをもらった人は早めに病院へ行きましょう。なお、学校での健康診断はあくまでもスクリーニングですので、受診した結果異常なしと診断されることもありますので御理解ください。

新型コロナウイルス感染症の流行があって、改めて当たり前だと思っていた「健康であること」の尊さを実感した人も多いかと思います。自分の健康は自分の手で守りましょう。

受診・治療をすすめられたら、



早めに病院へ行ってみましょう。